

人間研究

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期》

担当者

金井昌康

授業の概要

本講義では、幕末の混乱した社会を生きた人物に焦点をあてながら、人間関係や人間の営みや社会生活を考えてみたい。また、自分の生活を振り返ることも生きる力を育てていく上で有意義と考える。幕末に限らず興味ある人物の生き方も取り上げてみたい。

到達目標

人と人、人と社会との関係などについて、さまざまな分野から切り込んでいきたい。講義形式にこだわらず本講義でまなんだことを自分なりに咀嚼しノートにまとめたい。また、意見を発表する場を設け多面的な展開をしたい。15回の講義を通じて人間や社会のありかたについて考える機会を提供しようと考えている。

事前事後学習

オリエンテーション時に本講義の内容の意味を把握する。
7回と14回の終了時ノートを提出する。(話を真剣に聞き、板書はノートにまとめること)

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|-------------------------|
| 1 | | 1 | オリエンテーション |
| 2 | | 2 | 中川静也学長の生き方 教育は芸術である |
| 3 | | 3 | 吉田松陰はどんな人か |
| 4 | | 4 | 吉田松陰とその弟子たち |
| 5 | | 5 | 吉田松陰の残した言葉 |
| 6 | | 6 | 夏目漱石の生涯と家族たち |
| 7 | | 7 | 夏目漱石の作品にみる生き方 正岡子規との関係 |
| 8 | | 8 | 樋口一葉 紙幣に載ったただ一人の女性 |
| 9 | | 9 | 樋口一葉の生き方を考える |
| 10 | | 10 | 熊本県人の徳富蘇峰はどんなひとか |
| 11 | | 11 | 徳富蘇峰と徳富蘆花の兄弟関係は？ |
| 12 | | 12 | 豊臣秀吉はどのような生き方をしたのか |
| 13 | | 13 | 豊臣秀吉の家族について考える |
| 14 | | 14 | 豊臣秀吉と徳川幕府 |
| 15 | | 15 | ジョンQという映画の話聞いて父親の行動を考える |

成績評価基準及び方法

| | |
|---------------------------------|------------|
| 学習態度(30%)、ノートの整理(10%)、レポート(60%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 随時資料提供 | 随時、参考資料を紹介 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| | なし |

心理学

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期》

担当者

坂本哲朗

授業の概要

「かつて大人は子どもであった」のだから、振り返れば分かることもあるかもしれない。子どもの成長に関わろうとする若者たちの今の心は、日々どのように揺れ動いているのだろうか。本授業では、個人の心理や言動を社会との関係において解明し、心地よく生きる道筋を探究する。家族心理学、教育心理学、社会心理学などから幅広く学ぶ中で、自他の理解を深め生き抜く知恵を学び合う。また、「人はなぜいじめるのか」の緊急かつ大命題の理解と解決への方策に迫る。

到達目標

- ・心についての一般的知識を得て整理することができる。
- ・ペアから始まり、集団での交流活動で積極的に参加することができる。
- ・心に関わる各種情報に関心を持ち、学習課題に活用することができる。
- ・自己の特長を最大に発揮し、意見発表や討論協議ができる。

事前事後学習

心の問題について日常的に関心を持ち、ノートに切り抜きやメモをしておく。
緊急に解決すべき課題が発生した場合の解決策として、身近な人、物、事との絆づくりを進める。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|--------------------------|----|----|
| 1 | オリエンテーション。幼稚園の砂場で学んだこととは | 1 | |
| 2 | 本当の私とはⅠ 自尊感情 | 2 | |
| 3 | 本当の私とはⅡ 感情と健康 | 3 | |
| 4 | 相手と親しくするにはⅠ コミュニケーション | 4 | |
| 5 | 相手と親しくするにはⅡ 依頼と承諾 | 5 | |
| 6 | もて男、もて女であるにはⅠ 恋愛の法則 | 6 | |
| 7 | もて男、もて女であるにはⅡ 恋愛の進展 | 7 | |
| 8 | みんなの力で達成するにはⅠ 集団の力 | 8 | |
| 9 | みんなの力で達成するにはⅡ 組織の力 | 9 | |
| 10 | 見えない情報圧力とはⅠ 消費行動 | 10 | |
| 11 | 見えない情報圧力とはⅡ 群集心理 | 11 | |
| 12 | ストレス社会をしなやかにⅠ ケータイ、ネット依存 | 12 | |
| 13 | ストレス社会をしなやかにⅡ いじめ | 13 | |
| 14 | 小論文作成 | 14 | |
| 15 | 小論文発表会・意見交流 | 15 | |

成績評価基準及び方法

| | |
|---------------------|---|
| 学習態度(45%) レポート(55%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 随時、資料を配布する。 | 「本当にかかわる心理学」植木理恵著 日本実業出版社 「よくわかる社会心理学」小口孝司著 ナツメ社 「人生に必要な知恵は全て・・・」ロバートフルガム著 河出文庫 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| | なし |

日本国憲法

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期／幼免必修》

担当者

原田八重

授業の概要

日常生活にかかわる民法、犯罪に関する刑法、働くときに必要不可欠な労働法など、数多くの法律の基本となるのが日本国憲法である。この日本国憲法の基本構造、基本原理等について講義したい。

到達目標

人権保障の歴史・永久平和主義・いろいろな自由権の内容・平等権・社会権等について基礎的事項を理解する。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノートに目を通し、復習をおこなうこと。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|--------------------|
| 1 | | 1 | 日本国憲法の意義 |
| 2 | | 2 | 日本国憲法の歴史 |
| 3 | | 3 | 平和主義①前文と憲法9条 |
| 4 | | 4 | 平和主義②世界の中の平和主義 |
| 5 | | 5 | 基本的人権の保障①人権思想の歴史 |
| 6 | | 6 | 基本的人権の保障②人権の意義 |
| 7 | | 7 | 基本的人権の保障③明治憲法との比較 |
| 8 | | 8 | 基本的人権の保障④精神的自由権 I |
| 9 | | 9 | 基本的人権の保障⑤精神的自由権 II |
| 10 | | 10 | 基本的人権の保障⑥経済的自由権 |
| 11 | | 11 | 基本的人権の保障⑦身体的自由権 |
| 12 | | 12 | 統治①国会と立法 |
| 13 | | 13 | 統治②内閣と行政 |
| 14 | | 14 | 統治③裁判所と司法 |
| 15 | | 15 | 統治④地方自治 |

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、レポート・課題(15%)、学習態度(15%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|--------------------------|-----------|
| 「基本法学入門」 蓮井良憲・畑博之 有信堂高文社 | |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 教育制度論 | 幼稚園教諭二種免許 |

情報機器演習

《2単位(演習)／幼児保育学科2年通年／幼免必修》

担当者

深町修一

授業の概要

本講義では、パソコンやインターネットの基本的な操作を学び、さらに社会人になるために必須となっているワードプロセッサ・表計算・プレゼンテーションのアプリケーションの操作方法を中心に学ぶ。

到達目標

コンピュータの基本的な操作とオフィススイートの操作を習得することを目標とする。また、インターネットを利用した基本的なIT技術を身につける。

事前事後学習

演習中に行う演習については、時間内に終わらない場合は必ず次の演習までに終えておくこと。また、数回の課題提出をしてもらうので必ず提出すること。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期・後期 (※1クラス半期30コマ) | 回 | 前期・後期 (※1クラス半期30コマ) |
|----|---------------------|----|-------------------------|
| 1 | パソコンの基礎知識・基礎操作 | 16 | Excel よく利用する関数の使い方 |
| 2 | | 17 | Excel 簡単な表の作り方 |
| 3 | インターネット、eメールなど | 18 | |
| 4 | | 19 | |
| 5 | Word 文章の入力・文字の装飾 | 20 | PowerPoint プレゼンテーションの作成 |
| 6 | | 21 | |
| 7 | Word 基本的なビジネス文書 | 22 | 画像データの処理 |
| 8 | | 23 | |
| 9 | Word おたより作成 | 24 | ホームページ作成 I |
| 10 | | 25 | |
| 11 | Word 七夕のチラシ作成 | 26 | ホームページ作成 II |
| 12 | | 27 | |
| 13 | Excel 簡単な表の作成 | 28 | 動画の作成 |
| 14 | | 29 | |
| 15 | Excel よく利用する関数の使い方 | 30 | |

成績評価基準及び方法

| | |
|-----------------------|-----------|
| 学習態度(30%)、演習での成果(70%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 特になし(必要に応じて資料を配布します) | |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 特になし | 幼稚園教諭二種免許 |

幼児体育

《2単位(演習)／幼児保育学科2年通年／卒業必修》

担当者

村上清英

授業の概要

様々な運動遊びを行い、子どもが熱中する運動遊びを創作し、その支援・実践法について考える。

到達目標

- ①乳幼児期の子どもの遊びおよび運動に関心を持つようになる。
- ②子どもの発育発達に応じた運動内容を選択できる。
- ③安全面に留意した環境構成について述べるができる。
- ④環境に応じて運動遊びを変化・発展させることができる。

事前事後学習

授業の前に、テキスト「幼児保育」の当該箇所を読んでおくこと。レポート提出あり。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|-----------------------------|----|---------------------------|
| 1 | オリエンテーション | 16 | 鬼遊び |
| 2 | 乳幼児の健康問題 | 17 | 伝承遊び(グループ調査・発表) |
| 3 | 乳幼児の発育・発達の特徴 | 18 | 道具を使わない遊びⅠ:力くらべ遊び・ジャンケン遊び |
| 4 | 幼児教育における幼児体育の意義 | 19 | 道具を使わない遊びⅡ:かけっこ・リレー遊び |
| 5 | 幼児期の運動指導の留意点 | 20 | 体育器具を使った遊びⅠ:マット・とび箱を使った遊び |
| 6 | 安全面の配慮 | 21 | 体育器具を使った遊びⅡ:鉄棒・平均台を使った遊び |
| 7 | 指導計画案の作成Ⅰ(徒手体操、縄) | 22 | 手具を使った遊びⅠ:長・短なわを使った遊び |
| 8 | 指導計画案の作成Ⅱ(ボール) | 23 | 手具を使った遊びⅡ:ボールを使った遊び |
| 9 | 指導計画案の作成Ⅲ(鉄棒、平均台) | 24 | 手具を使った遊びⅡ:ボールを使った遊び |
| 10 | 指導計画案の作成Ⅳ(マット運動、跳び箱) | 25 | 表現・リズム遊び |
| 11 | 指導計画案の作成Ⅴ(水遊び) | 26 | 親子の運動遊び |
| 12 | 身近な素材を使った遊具作成①(ダンボール・新聞紙等) | 27 | 教材研究Ⅰ:創作ダンス① |
| 13 | 身近な素材を使った遊具作成②(ペットボトル・空き缶等) | 28 | 教材研究Ⅱ:創作ダンス② |
| 14 | 身近な素材を使った遊具作成③(ビニール袋・布等) | 29 | 教材研究Ⅲ:創作ダンス③ |
| 15 | 身近な素材を使った遊具作成④(牛乳パック等) | 30 | 教材研究Ⅳ:創作ダンス④ |

成績評価基準及び方法

| | |
|---|--|
| 学習態度(10%)、講義内試験(25%)、課題発表(35%)、レポート等(30%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 「幼児体育」青野光子・松本典子編著 建帛社 | 「保育と幼児期の運動遊び」岩崎洋子編 萌文書林 「幼少年期の体育」デビットガラヒュー著 大修館書店 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| こどもの遊びと運動学 | 幼稚園教諭二種免許・保育士資格 |

国語表現法

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期／卒業必修》

担当者

金井昌康

授業の概要

ジャンルでは、文章表記(詩、小論文・エッセイ・手紙・)と童話表記(児童文学として)を取り上げた。また、「書く」の表現では、授業の感想や新聞のコラムの書写をとり入れ、「読む」の表現ではできる限り多くの学生に読ませていきたい。

到達目標

現代学生の表現(特に書く、読む)の低下は否めない。その表現への抵抗を少しでも取り除いていくため、「反省並びに感想」を書かせそれを添削指導することにより、表現力をつけていきたい。また、コラムの書写は10時間は盛り込み評価の一つとする。

事前事後学習

テキストがないため、配布したプリントや資料などは、必ずノートに貼り保存すること、また講義を欠席した場合はプリントや資料は受け取りにくることを徹底する。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|---------------------------|----|----|
| 1 | オリエンテーション(授業内容の説明) | 1 | |
| 2 | 詩の力として、「金子みすゞ」の詩の世界にふれる。 | 2 | |
| 3 | 詩の力として、「金子みすゞ」の詩の世界にふれる。 | 3 | |
| 4 | 「金子みすゞ」の詩と「まど みちお」の詩を考える。 | 4 | |
| 5 | 小論文・感想文の書き方 | 5 | |
| 6 | 小論文・感想文の書き方 | 6 | |
| 7 | 社交的手紙の書き方の理解と演習 | 7 | |
| 8 | 社交的手紙の書き方の理解と演習 | 8 | |
| 9 | エッセイを読み取る力をつける～三大随筆 | 9 | |
| 10 | エッセイを読み取る力をつける～三大随筆 | 10 | |
| 11 | 韻文(短歌)に親しみ読み取る力をつける | 11 | |
| 12 | 韻文(俳句)に親しみ読み取る力をつける | 12 | |
| 13 | 紙芝居について(原点、語りの5つのポイント) | 13 | |
| 14 | 絵本の世界 絵本は心の栄養 絵本を読む演習 | 14 | |
| 15 | 絵本の世界 絵本は心の栄養 絵本を読む演習 | 15 | |

成績評価基準及び方法

| | |
|--------------------------------------|----------------------------|
| 学習態度(10%)、レポート、コラムの提出(15%)、定期試験(75%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| なし | 金子みすゞに関する本、三大随筆の資料、「国語表現法」 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| | 幼稚園教諭二種免許・保育士資格 |

教育原理

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期／卒業必修》

担当者

可児みづき

授業の概要

本講義では、「教育」という営みを理解する上での基礎的作業として、教育の意義、制度、方法などについて検討・考察を行う。具体的には次の4項目を扱う。①教育とは何かを歴史的・文化的に横断して検討する。②諸外国の教育制度も対象としつつ、教育制度の現状と課題について検討を行う。③教育の課程、方法、評価に関わる理論・実践を検討する。④生涯学習社会における教育の役割、および現代における教育課題について検討・考察する。

到達目標

- ・教育の意義と目的について理解を深める。
- ・教育の歴史、思想、制度に関わる知識を獲得する。
- ・教育の課程、方法、評価に関わる理論・実践について理解を深める。
- ・生涯学習社会と現代の教育問題に対する関心を高める。

事前事後学習

講義前には、テキストの指定箇所や予め配布された資料等を熟読しておくこと。講義内容を復習するためにプリントを配布し、記入・提出を求める場合がある。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|-----------------|----|----|
| 1 | オリエンテーション | 1 | |
| 2 | 教育とは何かⅠ～概念の整理 | 2 | |
| 3 | 教育とは何かⅡ～人間の発達 | 3 | |
| 4 | こども観と子どもの人権 | 4 | |
| 5 | 教育の理念と目的 | 5 | |
| 6 | 教育制度Ⅰ～義務教育 | 6 | |
| 7 | 教育制度Ⅱ～学校体系と学校改革 | 7 | |
| 8 | 教育制度Ⅲ～諸外国の教育制度 | 8 | |
| 9 | 教育思想と歴史 | 9 | |
| 10 | 教育方法Ⅰ～生活集団 | 10 | |
| 11 | 教育方法Ⅱ～プロジェクト学習 | 11 | |
| 12 | 教育方法Ⅱ～レッジョエミア | 12 | |
| 13 | 生涯教育と生涯学習 | 13 | |
| 14 | 現代の教育問題—格差社会と貧困 | 14 | |
| 15 | 講義のまとめ | 15 | |

成績評価基準及び方法

| | |
|---|------------------|
| 学習態度(20%)、講義各回におけるコメントシートあるいは課題等の提出状況と内容(40%)、定期試験(40%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 大沢裕ほか編『教育原理』—藝社、2012年。 | 随時紹介・提供する |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 保育原理、保育者論など | 幼稚園教諭二種免許・保育士資格 |

教育制度論

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期／幼免必修》

担当者

可児みづき

授業の概要

教育という営みを支え、ときには縛りもかける、制度について取り上げる。まず、教育の組織化と経営という視点から教育制度を捉える。そして、現行の幼児教育制度を理解するための前提として、歴史的展開を概説する。それから、幼児教育・保育をめぐる制度改革の動向、さらには幼児教育制度が直面する社会的課題等についても検討・考察する。

到達目標

- ・教育制度に関わる基礎概念を獲得する。
- ・幼児教育・保育をめぐる現行制度の枠組、改革動向について深く理解する。
- ・幼児教育制度が直面する社会的課題に対する関心を高める。

事前事後学習

講義前には、テキストの指定箇所や予め配布された資料等を熟読しておくこと。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|---------------------------|
| 1 | | 1 | オリエンテーション |
| 2 | | 2 | 教育行政Ⅰ～教育委員会制度の理念 |
| 3 | | 3 | 教育行政Ⅱ～教育委員会制度の実情 |
| 4 | | 4 | 教育行政Ⅲ～文部科学省 |
| 5 | | 5 | 教育財政～公費と私費 |
| 6 | | 6 | 教員制度～身分と学校組織 |
| 7 | | 7 | 教育経営Ⅰ～学校の運営・評価 |
| 8 | | 8 | 教育経営Ⅱ～コンプライアンス |
| 9 | | 9 | 日本の幼児教育制度の成立Ⅰ～戦前・戦後 |
| 10 | | 10 | 日本の幼児教育制度の成立Ⅱ～1970年代まで |
| 11 | | 11 | 幼児教育・保育をめぐる政策Ⅰ～幼保一体化 |
| 12 | | 12 | 幼児教育・保育をめぐる政策Ⅱ～認定こども園の制度化 |
| 13 | | 13 | 幼児教育・保育をめぐる社会的課題～学力問題 |
| 14 | | 14 | 幼児教育・保育をめぐる社会的課題～小1プロブレム |
| 15 | | 15 | 講義のまとめ |

成績評価基準及び方法

| | |
|---|--|
| 講義各回におけるコメントシートあるいは課題等の提出状況と内容(60%)、定期試験(40%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 適宜、必要資料を配布。 | 全国保育団体連絡会・保育研究所編『保育白書2014年版』ちいさいなかも社、2014年8月。宍戸健夫『日本における保育園の誕生：子どもたちの貧困に挑んだ人びと』新読書社、2014年8月。その他随時紹介。 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 教育原理、保育原理など | 幼稚園教諭二種免許 |

保育課程論

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期／幼免・保育士必修》

担当者

笠野恵子

授業の概要

子どもを取りまく環境の変化のなか、時代の要請に基づいた質の高い保育を展開するための保育の計画と評価について理解する。
保育課程・教育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。

到達目標

- ・保育課程・教育課程の意義や重要性を理解する。
- ・編成と作成にあたっては、子どもの発達過程をふまえた基本的な考え方を習得する。
- ・保育計画を立案し、計画から評価、改善までの保育過程と全体構造を理解する。

事前事後学習

事前に実習で学んだ保育計画について再確認して復習する。
学習後は、立案した保育計画を実践の場で活かしてみる。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 2年前期 | 回 | 後期 |
|----|--------------------------|----|----|
| 1 | オリエンテーション:授業の概要説明 | 1 | |
| 2 | 保育課程・教育課程の歴史的変化と意義及び役割 | 2 | |
| 3 | 保育の計画と評価の基本 | 3 | |
| 4 | 幼稚園の教育課程の編成 | 4 | |
| 5 | 保育所の保育課程の編成 | 5 | |
| 6 | 教育課程・保育課程の共通的計画作成上の留意点 | 6 | |
| 7 | 保育課程の計画作成上の留意点(0.1.2歳児) | 7 | |
| 8 | 指導計画の種類と作成上のポイント(1) | 8 | |
| 9 | 指導計画の種類と作成上のポイント(2) | 9 | |
| 10 | 保育計画・指導計画の実際(1)年間指導計画の立案 | 10 | |
| 11 | 保育計画・指導計画の実際(2)月間指導計画の立案 | 11 | |
| 12 | 保育計画・指導計画の実際(3)週の指導計画の立案 | 12 | |
| 13 | 保育計画・指導計画の実際(4)日の指導計画の立案 | 13 | |
| 14 | 指導計画の実践及び評価と改善点 | 14 | |
| 15 | まとめ | 15 | |

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、課題(保育計画、指導計画立案)(60%)、小レポート(10%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|--|-------------------------------------|
| 「幼稚園教育要領」フレーバル館 「保育所保育指針」フレーバル館 * 随時資料配布 | 「教育課程・保育課程を学ぶ」松村和子・近藤幹生・梶島香代「ななみ書房」 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 保育内容総論 | 幼稚園教諭二種免許・保育士 |

保育方法論

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期／幼免必修》

担当者

西島宣代

授業の概要

この授業では、保育の「方法論」について学びます。保育の仕事は、一見、子どもと遊んでいるだけのように見えますが、そうではありません。保育者は子どもの育ちを視野に入れておく必要があります。ここでは、子どもの育ちを支援する保育を行うための方法について学びます。

到達目標

- ・子どもの「遊び」についての理解を深める。
- ・子どもの育ちに影響を与える多様な保育方法のあり方についての理解を深める。

事前事後学習

毎授業前に指定する箇所「幼稚園教育要領」を読んでおくこと。
授業後は、授業内容の整理をし、ノートをまとめること。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----------------------|----|----|
| 1 | オリエンテーション:授業の概要説明 | 1 | |
| 2 | 諸外国の保育実践 | 2 | |
| 3 | 遊びの援助:小学校教育との連続性を考える | 3 | |
| 4 | 保育の実際① | 4 | |
| 5 | 保育の実際② | 5 | |
| 6 | 絵本が持つ教育的効果 | 6 | |
| 7 | 絵本から保育を考える① | 7 | |
| 8 | 絵本から保育を考える② | 8 | |
| 9 | 絵本から保育を考える③ | 9 | |
| 10 | 保育計画を見直す | 10 | |
| 11 | 保育計画を考える | 11 | |
| 12 | 遊びにおける保育者の援助① | 12 | |
| 13 | 遊びにおける保育者の援助② | 13 | |
| 14 | 遊びにおける保育者の援助③ | 14 | |
| 15 | まとめ | 15 | |

成績評価基準及び方法

受講態度(20%),授業内提出物(30%),小テスト(10%)、最終レポート(40%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|-------------|----------------------|
| 随時資料を配布します。 | 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 保育課程論等 | 幼稚園教諭二種免許・保育士 |

保育臨床相談

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期／幼免必修》

担当者

山口昌澄

授業の概要

保育現場で見られる様々な問題についての事例を取り上げ、問題の捉え方、援助の方法を検討をしていく。具体的には、発達心理学、臨床心理学等の理論的背景をもとに、自ら考える機会や、グループ・ディスカッション等を通して、保育実践上、有益な知見を深める。

到達目標

- ・子どもや保護者が抱える心理的問題を理解し、基本的対応について学ぶこと。
- ・保育現場でぶつかる様々な問題への対応について、自ら考える力を養うこと。

事前事後学習

事前に授業に関連する資料を配布するので、授業前に読んでおく。授業後には授業にて配布したプリントを整理しまとめておく。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|------------------------|
| 1 | | 1 | オリエンテーション |
| 2 | | 2 | 現代社会と子どもの育ち |
| 3 | | 3 | 事例(けんか)をもとに考える。 |
| 4 | | 4 | 事例(育ちの気になる子ども)をもとに考える。 |
| 5 | | 5 | 子ども虐待と子どもの心の健康 |
| 6 | | 6 | カウンセリング・マインド① |
| 7 | | 7 | カウンセリング・マインド② |
| 8 | | 8 | 事例(登園拒否)をもとに考える。 |
| 9 | | 9 | 保育現場における臨床心理学的援助 |
| 10 | | 10 | 緘黙児への対応① |
| 11 | | 11 | 緘黙児への対応② |
| 12 | | 12 | 情緒障がい児への対応 |
| 13 | | 13 | 多様な家族ニーズと育ち① |
| 14 | | 14 | 多様な家族ニーズと育ち② |
| 15 | | 15 | 学習まとめ |

成績評価基準及び方法

| | |
|---------------------|------------------|
| 学習態度(30%)、定期試験(70%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 特になし。資料を配布する。 | 随時紹介する。 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 保育の心理学Ⅱ、臨床心理学 | 幼稚園教諭二種免許 |

教育実習指導

《1単位(演習)／幼児保育学科2年通年／幼免必修》

担当者

可児みづき・西島宣代

授業の概要

大学で学んだ理論や知識を、教育・保育という実践の場で具体的に活用するための方法について学習する。また、実習に向けての準備、実習の反省などを通して、子どもとの関わり方や、実習生自身が行う様々な働きかけを省察し、自らの教育・保育についての考えを深める。さらに、実習の前後に事前・事後指導を行い、幼児教育・保育に対する課題や認識を明確にしていく。

到達目標

- ・幼稚園での生活を学び、一日の流れを理解する。
- ・子どもの個人差についての理解を深め、対応方法を学ぶ。
- ・保育の計画、実践、観察、記録、自己評価などについて基本的な事項を学び、実習に備える。
- ・保護者支援や地域社会などとの連携について総合的に学ぶ。
- ・安全及び疾病予防への配慮について理解する。
- ・幼稚園教諭に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。

事前事後学習

教育実習指導の事前・事後学習としては、講義・演習時に指定された課題に取り組むことを重要視する。また、分からないことは教員に積極的に尋ねるよう要請する。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期・後期(通年中15回) | 回 | |
|----|---------------------------|----|--|
| 1 | 授業オリエンテーション | 16 | |
| 2 | 実習の意義・目的、目標の設定 | 17 | |
| 3 | 指導案の書き方 | 18 | |
| 4 | 実習記録の書き方 | 19 | |
| 5 | 教材研究(1) 模擬設定保育(部分参加) | 20 | |
| 6 | 教材研究(2) 模擬設定保育(表現活動) | 21 | |
| 7 | 教材研究(3) 模擬設定保育(絵本の読み聞かせ) | 22 | |
| 8 | 実習オリエンテーション | 23 | |
| 9 | 実習反省会(前期) | 24 | |
| 10 | 教材研究(4) 模擬設定保育(部分参加) | 25 | |
| 11 | 教材研究(5) 模擬設定保育(朝・帰りのお集まり) | 26 | |
| 12 | 教材研究(6) 模擬設定保育(主活動②) | 27 | |
| 13 | 実習オリエンテーション | 28 | |
| 14 | 実習反省会(後期) | 29 | |
| 15 | 実習の振り返り | 30 | |

成績評価基準及び方法

演習・発表等(60%)、レポート(40%)

本授業における出席は実習を許可する基準となるので、留意して出席すること。原則として欠席に対する補講は行わない。

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|--|-----------|
| 「教育・保育実習のガイダンス」 「保育実習・教育実習のてびき」「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領」の他、随時資料を配布 | 随時紹介する |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 教育実習、教職(幼稚園)・保育実践演習 | 幼稚園教諭二種免許 |

教職(幼稚園)・保育実践演習

《2単位(演習)／幼児保育学科2年後期／幼免・保育士必修》

担当者

山口昌澄・笠野恵子・牛島豊広・可児みづき・西島宣代

授業の概要

本演習は、保育者としての準備性を高めるために、これまでの学修を振り返り、自己の課題を把握するとともに、必要に応じて不足する知識・技能の修得を目指すものである。具体的には、保育者としての役割理解の深化、対人関係でのスキル獲得、幼児・人間理解の姿勢・思考術の向上、教材研究も含めた保育技術の研鑽等が挙げられる。

到達目標

・幼稚園教諭・保育士としての倫理観と責任感を養う。
・保育者の基礎として、また保育者間、保護者・他機関との協働を視野に、対人関係能力に関わる理解を深め、スキルを習得する。

事前事後学習

・指導案の作成、教材研究などを通して、保育の知識と技術を修得する。
・現代的な保育課題に対して理解し、それらに対処する上での基礎的な視点、思考術を得る。
履修カルテの整理を随時行う。演習を通して、明確にされた自己課題への取り組みを継続的に行う。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|-----------------------------|
| 1 | | 1 | オリエンテーションー学修の振り返り(可児) |
| 2 | | 2 | 対人関係能力の育成(山口) |
| 3 | | 3 | 保育技術の育成①(笠野・牛島・可児・西島) |
| 4 | | 4 | 保育技術の育成②(笠野・牛島・可児・西島) |
| 5 | | 5 | 保育技術の育成③(笠野・牛島・可児・西島) |
| 6 | | 6 | 教職の意義と役割(外部講師) |
| 7 | | 7 | 幼児理解と学級経営(山口) |
| 8 | | 8 | 全実習の振り返りとこれからの課題の検討(可児) |
| 9 | | 9 | 現代における保育の課題検討①(笠野・牛島・可児・西島) |
| 10 | | 10 | 保育技術の育成④(笠野・西島) |
| 11 | | 11 | 現代における保育の課題検討②(笠野・牛島・可児・西島) |
| 12 | | 12 | 現代における保育の課題検討③(笠野・牛島・可児・西島) |
| 13 | | 13 | 保育士の役割と倫理(外部講師) |
| 14 | | 14 | 保育者間の連携を図るロールプレイング(山口・可児) |
| 15 | | 15 | 本演習の総括と反省会(可児) |

成績評価基準及び方法

各単元ごとのミニレポート等(80%)、本演習の総括となるレポート等(20%)の合計100%で評価を行う。

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|---------------------------------|------------------|
| 特になし。適宜、各回担当者がプリントを配布する。 | 適宜、各回担当教員より紹介する。 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 幼稚園教諭二種免許・保育士資格を得る上での、必修科目と関連する | 幼稚園教諭二種免許・保育士 |

相談援助

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／保育士必修》

担当者

牛島豊広

授業の概要

社会情勢や家族形態の変化により、保育士には子どもの保育だけでなく、保護者への相談支援が求められてきている。そのことを、正しく理解し、保育士の保護者に対する相談支援のあり方についてより具体的に解説する。また、相談援助の原理・原則を理解したうえで、その技術や方法について学ぶ。さらに、保育におけるソーシャルワーク実践を学ぶ。

到達目標

1. 相談援助の概要について理解する。
2. 相談援助の原理・原則を理解する。
3. 相談援助の実践事例を通じてその展開過程を理解する。

事前事後学習

保育実習Ⅰの経験をふまえ、現場の保育士がどのように保護者や地域の関係機関と関係を構築していたか振り返りしておくこと。

授業計画(項目・内容)

| 週 | 前期 | 週 | 後期 |
|----|---------------------|----|----|
| 1 | オリエンテーション(授業の進め方など) | 1 | |
| 2 | 相談援助の意義と基本的視点 | 2 | |
| 3 | 相談援助の理論と機能 | 3 | |
| 4 | 保育におけるソーシャルワークについて① | 4 | |
| 5 | 保育におけるソーシャルワークについて② | 5 | |
| 6 | 相談援助の方法 | 6 | |
| 7 | 相談援助の展開過程① | 7 | |
| 8 | 相談援助の展開過程② | 8 | |
| 9 | 相談援助の展開過程③ | 9 | |
| 10 | 相談援助における記録・評価について | 10 | |
| 11 | 他専門機関との連携について | 11 | |
| 12 | 保育現場における相談援助の事例研究① | 12 | |
| 13 | 保育現場における相談援助の事例研究② | 13 | |
| 14 | 保育現場における相談援助の事例研究③ | 14 | |
| 15 | まとめ | 15 | |

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、授業課題(30%)、定期テスト(60%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|---------------------|--------------------------|
| 演習・保育と相談援助[第2版] みらい | 「保育ソーシャルワークのフロンティア」 晃洋書房 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 保育実習Ⅰ、保育相談支援、 | 保育士資格 |

子どもの食と栄養

《2単位(演習)／幼児保育学科2年通年／卒業必修》

担当者

稲田美和子

授業の概要

平成17年に、豊かな人間性を育むための食育のあり方を目指して、「食育基本法」が制定され、H23年には、第2次の改定が策定され、「保育所保育指針」では食育推進の項が示され、子どもたちの、健康な生活の基本となる「食を営む力」の育成が培われる目標の事項があげられている。子どもの発育発達過程に応じて育てたい「食べる力」の育成として、厚生労働省から、「食から始まる健やかガイド」に準じ、保育所や幼稚園における食育実施が明示されている。この現状を踏まえ、「食育」が出来る保育士を育てる必要性も生まれてきている。授業を通して「食育」の大切さを学ばせ、同時に、「食の自立」ができる大人に成長できるような調理技術の習得についての学習の機会としていく。

到達目標

小児期の食に関する実情や正しい栄養の摂取について、小児を含め養育者に対しての「食に関する指導」を行えるような保育士として活動できるように知識を習得させる。また、自分自身の健康管理からも、正しい食生活が送れるような、生活習慣の改善等に対する「行動変容」を実際に行えるようにする。

事前事後学習

授業中は教科書を必ず持参し、資料にある空欄は授業の中で必ず必要な事項で埋めて。資料は重要なポイントをまとめてあるので、テストの際に必ず見直しておくこと。授業の最後には、班ごとに「食育媒体作成を行うため、かねてより班の友好を築いておくこと。演習では調理をするので、エプロン・三角巾は各自準備しておくこと。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期・後期 (※1クラス半期30コマ) | 回 | 前期・後期 (※1クラス半期30コマ) |
|----|--|----|---|
| 1 | 1、子どもの健康と食生活の意義 調理実習オリエンテーション | 16 | 幼児期の食事(1～2歳)・おやつを考える |
| 2 | | 17 | E 学童期の心身の発達と食生活 調理:学校給食献立(P148)の実習 |
| 3 | 2、栄養に関する基本的知識 | 18 | |
| 4 | A 栄養の基本的概念と食事摂取基準 | 19 | F 生涯発達と食生活 調理:保育所での行事食を作ってみよう (七夕まつり) |
| 5 | B 栄養に関する基本的知識(炭水化物・脂質) 基礎調理(朝ご飯を作ろう) | 20 | |
| 6 | | 21 | 4、食育の基本と内容① 調理:保育所の給食(p196)献立実習 |
| 7 | B 栄養に関する基本的知識(たんぱく質・無機質等) 調理(20歳女子の1日の献立)中口絵⑧より | 22 | |
| 8 | | 23 | 食育の基本と内容② 保育所の給食(お誕生会メニュー) |
| 9 | 3、A 子どもの発育・発達と食生活 子どもの栄養状態を評価し、自分のBMIを計算しよう。 | 24 | |
| 10 | | 25 | 5、家庭や児童福祉施設における食事と栄養 行事食・伝統食を作ってみよう |
| 11 | B 胎児期(妊娠期)の食生活 調理(妊娠時の食事(鉄分・Caが摂れる食事)) | 26 | |
| 12 | | 27 | 6、特別な配慮を要する子どもの食と栄養 小児の「食育の媒体」を作ってみよう |
| 13 | C 乳児の授乳・離乳の意義と食生活 離乳食を作ろう(中期～完了期) | 28 | |
| 14 | | 29 | 小児の「食育の媒体」を作ってみよう 媒体発表 |
| 15 | D 幼児期の心身の発達と食生活 | 30 | |

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、定期試験(60%)、授業中に行う演習・発表(20%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|----------------------|---|
| 「最新子どもの食と健康」 編著 学建書院 | 「見てわかる! 栄養の図解辞典」 中村丁次 PHP研究所 「日本人の食事摂取基準2015」 第一出版 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 乳児保育・子どもの保健Ⅰ・子どもの保健Ⅱ | 保育士資格 |

家庭支援論

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期／保育士必修》

担当者

賀久久美子

授業の概要

保育士は保育に欠ける子どもの保育をし、その保護者の子育てを支援し、地域の子育てを拠点としての働きをする専門性を求められている。変動する現代社会の中で、改めて家庭とは何か、子どもが育つとはどんな事か、家庭の役割は何か、又その働きにどんな期待がされているか、等家庭についての基本的な課題に視点を置き、現在のこどもたちの豊かな育ちのために、多方面からの子育て支援の必要性を学ぶ。

到達目標

- ①子供たちの自尊感情を高めることを認識する。
- ②自分も隣人も大切にすることを基本に、いろいろな生き方を受容する大らかな心を養う。
- ③前向きに対応できる支援者になろう。

事前事後学習

- ・テキストを事前によく読んでおく。
- ・講義内容をよくまとめ、理解する。
- ・様々な家族形態・家庭への配慮ができるようにする。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|-------------------------|
| 1 | | 1 | オリエンテーション 家族援助論概要 |
| 2 | | 2 | 子育てと家族・家庭(意義と機能) |
| 3 | | 3 | 子育てをめぐる問題(家庭支援の必要性) |
| 4 | | 4 | 子育て困難の様々(人間関係～夫婦・親子関係) |
| 5 | | 5 | 子育て家庭支援の政策動向と展望 |
| 6 | | 6 | 子育て家庭を支援する具体的な制度 |
| 7 | | 7 | 子育て家庭支援のあり方(現代における親の理解) |
| 8 | | 8 | 支援の実際(男女共同参画社会とWLB) |
| 9 | | 9 | 特別なニーズをもつ家庭への支援 |
| 10 | | 10 | 育て難さのある子ども |
| 11 | | 11 | 子育て支援センター母子との交流会 |
| 12 | | 12 | 子育て支援の実際(子ども虐待への保育者の支援) |
| 13 | | 13 | 保育者の生活発表会を見学(地域の支援) |
| 14 | | 14 | 子育て支援の実際と課題 |
| 15 | | 15 | まとめ |

成績評価基準及び方法

| 学習態度(感想文含む)(50%)、定期試験(50%) | |
|-----------------------------|----------------------------|
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 「学ぶわかるみえる保育と家庭支援」上田 衛(株)みらい | 「子ども・子育て支援新制度」前田尚美 「子ども事典」 |
| | 資格等 |
| 相談援助 | 保育士資格 |

保育相談支援

《1単位(演習)／幼児保育学科2年後期／保育士必修》

担当者

牛島豊広

授業の概要

1. 保育士の専門性を生かした保護者支援の必要性および重要性について学ぶ。
2. 保育士の業務と保護者支援の関係性について概観する。
3. 保育者支援の原理・原則を学び相談技術の展開について学ぶ。
4. 保育現場における実践事例を通じて、保育相談支援のあり方を考える。

到達目標

保育者が相談援助を行うにあたり、適切なコミュニケーションスキルを身に付ける。また、保護者支援、子育て支援にあたる際の援助展開過程において適切なソーシャルワーク技法を習得する。

事前事後学習

前期に実施した相談援助をふまえ、現場で保育士に求められる相談支援について理解を深めていく。そのためにも、実習等の機会において保育士がどのような支援に取り組んでいるか理解を深めておくこと。

授業計画(項目・内容)

| 週 | 前期 | 週 | 後期 |
|----|----|----|---------------------|
| 1 | | 1 | オリエンテーション(授業の進め方など) |
| 2 | | 2 | 保育相談支援の意義と基本的視点 |
| 3 | | 3 | 保育相談支援の原理・原則 |
| 4 | | 4 | 保育相談支援の方法と技法について① |
| 5 | | 5 | 保育相談支援の方法と技法について② |
| 6 | | 6 | 保育相談支援の展開過程① |
| 7 | | 7 | 保育相談支援の展開過程② |
| 8 | | 8 | 保育相談支援の展開過程③ |
| 9 | | 9 | コミュニケーション演習① |
| 10 | | 10 | コミュニケーション演習② |
| 11 | | 11 | 事例研究1 |
| 12 | | 12 | 事例研究2 |
| 13 | | 13 | 事例研究3 |
| 14 | | 14 | 事例研究4 |
| 15 | | 15 | まとめ |

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、授業課題(60%)、定期テスト(30%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|------------------------------|--------------------------|
| 「保育相談支援(新・プリマーズ・保育)」 ミネルヴァ書房 | 「保育ソーシャルワークのフロンティア」 晃洋書房 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 相談援助、保育実習Ⅱ、Ⅲ | 保育士資格 |

保育実習指導Ⅱ

《1単位(演習)／幼児保育学科2年通年／保育士選択必修》

担当者

笠野恵子

授業の概要

保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育の観察、記録、計画、実践など保育について総合的に学ぶ。保育の表現技術を生かした保育実践力を高めるため、教材の研究や指導計画に基づいた保育実践を行う。また、既習の教科との関連性を踏まえ、子どもの保育と保護者支援について具体的に考える。なお、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行う。

到達目標

- ・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
- ・実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
- ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
- ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。
- ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

事前事後学習

保育実習指導Ⅰの授業資料を振り返り、講義や演習の内容を整理しておくこと。
毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
模擬保育に向けて、子どもの遊びや生活に関する資料収集や準備(教材作りなど)及び指導案の作成と見直しを行うこと。
授業後には自分・他者の指導案を見直し、改善点などについて考察すること。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期・後期(通年中15回) | 回 | |
|----|--------------------------|----|--|
| 1 | 授業オリエンテーション | 1 | |
| 2 | 実習の意義・目的 | 2 | |
| 3 | 実習生調書・本実習の目標の書き方 | 3 | |
| 4 | 実習記録の書き方(保育実習Ⅰの実習記録を基に) | 4 | |
| 5 | 指導案の作成方法と子ども理解 | 5 | |
| 6 | 教材研究(1)模擬設定保育(主活動) | 6 | |
| 7 | 教材研究(2)模擬設定保育(朝・帰りのお集まり) | 7 | |
| 8 | 教材研究(3)模擬設定保育(主活動への導入) | 8 | |
| 9 | 教材研究(4)模擬設定保育(主活動) | 9 | |
| 10 | 保育における表現技術の実践1 | 10 | |
| 11 | 実習オリエンテーション | 11 | |
| 12 | 実習の振り返りと改善点 | 12 | |
| 13 | 保育士の専門性と職業倫理 | 13 | |
| 14 | 保育における表現技術の実践2 | 14 | |
| 15 | 実習のまとめと今後の課題 | 15 | |

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、演習・発表(50%)、レポート・提出物(30%)
本授業における出席は実習を許可する基準となるので、留意して出席すること。原則として欠席に対する補講は行わない。

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|--|--------------------------|
| 「教育・保育実習のデザイン」萌文書林 「保育実習・教育実習のてびき」「保育所保育指針」の他、随時資料を配布 | 実習の記録と指導案 田中 亨胤監修・ひかりのくに |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 保育実習指導Ⅱ、保育実践演習 | 保育士資格 |

保育実習Ⅲ

《2単位(実習)／幼児保育学科2年集中／保育士選択必修》

担当者

牛島豊広

授業の概要

これまでの実習において、児童福祉施設等の役割や機能、一日の流れについて、実践現場での体験を通して学習したことを踏まえ、さらに対象施設の利用者への援助の方法を深く学ぶ。また、施設職員の職務を観察し、かつレクチャーを受けて、実践にいかすことで、施設保育士の職務内容を深く理解する。

到達目標

- ・児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
- ・施設職員の職務内容を正しく理解する。
- ・既習の教科の内容を踏まえ、施設利用者への支援について総合的に学ぶ。
- ・施設保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

事前事後学習

保育所以外での福祉施設の機能や役割を理解するために、ボランティア活動等へ積極的に参加すること。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|------------|----|----|
| 1 | | 1 | |
| 2 | 8月～9月 | 2 | |
| 3 | 施設実習(12日間) | 3 | |
| 4 | | 4 | |
| 5 | | 5 | |
| 6 | | 6 | |
| 7 | | 7 | |
| 8 | | 8 | |
| 9 | | 9 | |
| 10 | | 10 | |
| 11 | | 11 | |
| 12 | | 12 | |
| 13 | | 13 | |
| 14 | | 14 | |
| 15 | | 15 | |

成績評価基準及び方法

| | |
|-------------------------|--------------------------|
| 実習(100%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 随時プリント配布 | 保育士をめざす人の福祉施設実習〔第2版〕 みらい |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 社会福祉・社会的養護・相談援助・保育実習指導Ⅲ | 保育士資格 |

保育実習指導Ⅲ

《1単位(演習)／幼児保育学科2年通年／保育士選択必修》

担当者

牛島豊広

授業の概要

児童福祉施設・その他の社会福祉施設の養護について学びを深め、施設保育士の役割を理解する。それにより、保育士に必要な専門性や技術を習得する。さらに、地域に存在する福祉施設を訪問し、利用者の生活実態に触れることで、利用者を正しく理解する。

到達目標

- ・施設保育士として必要な知識を習得する。
- ・発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応について理解する。
- ・利用者や施設職員とのコミュニケーションのはかり方を修得する。

事前事後学習

保育所以外の福祉施設に対する専門的な理解を深めていくため、保育実習指導Ⅰ及び保育実習Ⅰの施設の振り返りを十分にしておくこと。また、社会福祉に関する知識、技術を身につけ、保育士が福祉施設で実践する支援について学びを深める。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期・後期(通年中15回) | 回 | |
|----|-------------------------|----|--|
| 1 | 施設実習オリエンテーション | 1 | |
| 2 | 社会的養護について① | 2 | |
| 3 | 社会的養護について② | 3 | |
| 4 | 施設実習の意義と心得 | 4 | |
| 5 | 施設保育士の仕事の理解① | 5 | |
| 6 | 施設保育士の仕事の理解② | 6 | |
| 7 | 児童福祉施設についての理解①(児童養護施設) | 7 | |
| 8 | 児童福祉施設についての理解②(乳児院) | 8 | |
| 9 | 児童福祉施設についての理解③(知的障害児施設) | 9 | |
| 10 | 実習調書・学びの目的の書き方① | 10 | |
| 11 | 実習日誌の書き方① | 11 | |
| 12 | 実習日誌の書き方② | 12 | |
| 13 | オリエンテーションの受け方 | 13 | |
| 14 | 実習事前指導 | 14 | |
| 15 | まとめ | 15 | |

成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、レポート・提出物・発表(60%)

本授業における出席は実習を許可する基準となるので、留意して出席すること。原則として欠席に対する補講は行わない。

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|------------------------------------|--------------------------|
| 「保育実習・教育実習のてびき」「保育所保育指針」の他、随時資料を配付 | 保育士をめざす人の福祉施設実習〔第2版〕 みらい |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 社会福祉、社会的養護、相談援助・保育実習Ⅲ | 保育士資格 |

障がい総論

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期集中／障がい者スポーツ指導員必修》

担当者

牛島豊広・村上清英・辻 啓司

授業の概要

障がい者のスポーツの歴史的背景を学び、障がい者がスポーツに取り組む際の現状と課題を整理する。また、障がい者のスポーツ指導を実践する際に必要な基礎知識を修得する。さらに、障がい者とふれ合うことによって、障がい者福祉の現状を理解し、障がい者の立場、思考を考察することで、障がい者支援の在り方を理解する一助とする。

到達目標

障がい者福祉の基礎知識を理解する。また、障がい者スポーツに関する知識を学び、実技および指導法を修得する。

事前事後学習

これまでの障がい者福祉に関する学びを整理し、ボランティア活動等に積極的な参加を求める。また、講義の後、実技もあるので日ごろから健康に留意し、適度な運動を心がけること。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|------------------------------------|----|----|
| 1 | 障害者福祉施策と障害者スポーツ(牛島) | 1 | |
| 2 | 障害者福祉施策と障害者スポーツ(牛島) ボランティア論(牛島) | 2 | |
| 3 | ボランティア論(牛島) | 3 | |
| 4 | 安全管理(村上) | 4 | |
| 5 | 障害者スポーツの意義と理念(辻) | 5 | |
| 6 | 障害者スポーツの意義と理念(辻) 障害の理解とスポーツ(辻) | 6 | |
| 7 | 障害の理解とスポーツ(辻) | 7 | |
| 8 | 障害の理解とスポーツ(辻) | 8 | |
| 9 | 障害の理解とスポーツ(牛島) | 9 | |
| 10 | (財)日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導者制度(辻) | 10 | |
| 11 | 全国障害者スポーツ大会の概要(辻) | 11 | |
| 12 | 障害に応じたスポーツの工夫・実施(実技)(村上) | 12 | |
| 13 | 障害に応じたスポーツの工夫・実施(実技)(村上) | 13 | |
| 14 | 障害者との交流(実技)(村上) | 14 | |
| 15 | 障害者との交流(実技)(村上) | 15 | |

成績評価基準及び方法

| | |
|--|-----------------------|
| 学習態度(20%)、授業内課題(30%)、発表(20%)、定期試験(30%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 随時指示する、プリントを配布する | 「障害者スポーツの環境と可能性」 創文企画 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 保育内容(生活と健康)、幼児体育、社会福祉 | 初級障がい者スポーツ指導員 |

こどもの音楽遊び

《1単位(演習)／幼児保育学科2年後期／保育総合コース選択》

担当者

田邊裕子

授業の概要

子ども一人ひとりの成長・発達の特徴に応じた表現活動ができる保育者を目指すために、創造豊かな音楽遊びが展開できる感性豊かな保育者を育てることを目的とする。幼児期における生活と遊びの中で創造的・即興的な表現活動を通して、発展的な展開方法や指導方法を学ぶ。豊かな感性や表現する力を養うために、基礎的な音楽の知識や技術を習得し、保育現場で応用できるこどもの音楽遊びを研究する。個人およびグループによる主体的な活動に取り組むことにより、こどもの発達・成長に応じた音楽遊びの展開方法を学び実践する。

到達目標

- ・子どもの生活や遊びを通して実践する音楽活動を理解する。
- ・子どもの成長に合わせた音楽遊びの工夫や指導方法を習得する。
- ・グループ活動における学生相互の学び合いにより、主体的な音楽遊びの展開ができる。

事前事後学習

毎回の授業課題の準備のために、前もってピアノの弾き歌いなどの練習等を重ねることが必要である。日頃から子どもの音楽遊びに対する興味を持ち事例を収集しておくこと。授業後には、課題のために準備した資料や作品を整理しまとめておくこと。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|---|----|----|----------------------|
| | | 1 | オリエンテーション |
| | | 2 | こどもの生活と音楽あそび |
| | | 3 | 園の行事と音楽活動 |
| | | 4 | 手づくり楽器とこどもの遊び |
| | | 5 | 季節(春)の歌あそび |
| | | 6 | 季節(夏)の歌あそび |
| | | 7 | 季節(秋)の歌あそび |
| | | 8 | 季節(冬)の歌あそび |
| | | 9 | ハンドベル演奏(クリスマスバージョン1) |
| | | 10 | ハンドベル演奏(クリスマスバージョン2) |
| | | 11 | こどもの遊びと楽器 |
| | | 12 | 楽器あそび(合奏1) |
| | | 13 | 楽器あそび(合奏1) |
| | | 14 | 音楽遊びのグループ発表 |
| | | 15 | まとめと振り返り |

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、実技発表(50%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|--------------------------|---|
| 適宜、資料や楽譜を配布する。 | 「保育者のためのピアノレッスン」清原貴子編著 権歌書房 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会編著音楽之友社 「幼児のための音楽教育」神原雅之ほか編著 教育芸術社 その他、適宜紹介する。 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 保育内容(生活と表現Ⅰ)、教育実習、保育実習など | 保育士資格 |

子どもの造形遊び

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／保育総合コース選択》

担当者

森本 直樹

授業の概要

子どもの柔軟な感性に対応していくためには、保育者の豊富な造形体験が必要である。そこで、保育実践に必要な様々な造形表現の知識や基礎技能の習得を目指す。同時に自ら美術に親しみ、創造の喜びを味わい、保育者としての資質を高める。

到達目標

- ・造形教育の意義と目的を理解する
- ・造形教育の内容・方法について理解する
- ・造形教育に関する知識を深めるとともに、指導上必要な技術を習得する。
- ・自らの発想や構想で表現する力を創作体験を通して習得する。

事前事後学習

- ・日々の感動や観察をスケッチすること。
- ・課題について事前に教材研究を行い、準備をしておくこと。
- ・授業後はワークシートを整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|------------------------|----|----|
| 1 | オリエンテーション : 授業の概要および説明 | 16 | |
| 2 | 平面造形の技法と展開① : 表現技法の体験 | 17 | |
| 3 | 平面造形の技法と展開② : 表現技法の体験 | 18 | |
| 4 | 平面造形の技法と展開③ : 表現技法の体験 | 19 | |
| 5 | 平面造形の技法と展開④ : 表現技法の体験 | 20 | |
| 6 | 平面造形の技法と展開⑤ : 表現技法の体験 | 21 | |
| 7 | 平面造形の技法と展開⑥ : 表現技法の体験 | 22 | |
| 8 | 平面造形の技法と展開⑦ : 表現技法の体験 | 23 | |
| 9 | 平面造形の技法と展開⑧ : 表現技法の体験 | 24 | |
| 10 | 平面造形の技法と展開⑨ : 表現技法の体験 | 25 | |
| 11 | 平面造形の技法と展開⑩ : 表現技法の体験 | 26 | |
| 12 | 表現技法の応用① : 壁面構成(共同制作) | 27 | |
| 13 | 表現技法の応用② : 壁面構成(共同制作) | 28 | |
| 14 | 表現技法の応用③ : 壁面構成(共同制作) | 29 | |
| 15 | まとめ : 作品発表 | 30 | |

成績評価基準及び方法

制作に対する取り組み度(30%)、作品(70%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|----------------------|------------------------|
| 特になし。必要に応じて資料等を配布する。 | 「保育をひらく造形表現」 槇 英子 萌文書林 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 保育現場の子どもと遊び、保育実践演習など | 保育士資格 |

幼児造形

《1単位(演習)／幼児保育学科2年後期／保育総合コース選択》

担当者

森本 直樹

授業の概要

子どもの柔軟な感性に対応していくためには、保育者の豊富な造形体験が必要である。そこで、保育実践に必要な様々な造形表現の知識や基礎技能の習得を目指す。同時に自ら美術に親しみ、創造の喜びを味わい、保育者としての資質を高める。

到達目標

- ・造形教育の意義と目的を理解する
- ・造形教育の内容・方法について理解する
- ・造形教育に関する知識を深めるとともに、指導上必要な技術を習得する。
- ・自らの発想や構想で表現する力を創作体験を通して習得する。

事前事後学習

- ・日々の感動や観察をスケッチすること。
- ・課題について事前に教材研究を行い、準備をしておくこと。
- ・授業後はワークシートを整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----|----|----------------------------|
| 1 | | 16 | 立体表現の基本と展開① : 粘土の特徴と種類 |
| 2 | | 17 | 立体表現の基本と展開② : 粘土による制作 |
| 3 | | 18 | 立体表現の基本と展開③ : 粘土による制作 |
| 4 | | 19 | 立体表現の基本と展開④ : 粘土による制作 |
| 5 | | 20 | 立体表現の基本と展開⑤ : 粘土による制作 |
| 6 | | 21 | 立体表現の基本と展開⑥ : 紙による制作 |
| 7 | | 22 | 立体表現の基本と展開⑦ : 紙による制作 |
| 8 | | 23 | 立体表現の展開① : リサイクル・自然素材による制作 |
| 9 | | 24 | 立体表現の展開② : リサイクル・自然素材による制作 |
| 10 | | 25 | 立体表現の展開③ : リサイクル・自然素材による制作 |
| 11 | | 26 | 立体表現の展開④ : リサイクル・自然素材による制作 |
| 12 | | 27 | 表現技法の応用① : オブジェ表現(共同制作) |
| 13 | | 28 | 表現技法の応用② : オブジェ表現(共同制作) |
| 14 | | 29 | 表現技法の応用③ : オブジェ表現(共同制作) |
| 15 | | 30 | まとめ : 作品発表 |

成績評価基準及び方法

制作に対する取り組み度(30%)、作品(70%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|----------------------|------------------------|
| 特になし。必要に応じて資料等を配布する。 | 「保育をひらく造形表現」 槇 英子 萌文書林 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 保育現場の子どもと遊び、保育実践演習など | 保育士資格 |

こどもの遊びと運動学

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／保育総合コース選択》

担当者

村上清英

授業の概要

運動学の基礎知識を学び、子どもの運動能力を引き出す運動指導法の習得を目指す。また、運動遊びを計画する際に参考となる子どもの運動能力の実態を把握する手法について学ぶ。

到達目標

- ①子どもの運動意欲や多様な動きを引き出す指導法について述べることができる。
- ②他者の動きの観察を通じて適切なかからだの動かし方に関心を持つようになる。
- ③様々な運動遊びの基礎的な技能を高める。

事前事後学習

授業中に出される課題(実技テスト、レポート等)を出す。課題をクリアできるように工夫すること。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|-----------------------------|----|----|
| 1 | オリエンテーション | 16 | |
| 2 | 運動技術の理解Ⅰ:運動の局面構造の理解 | 17 | |
| 3 | 運動技術の理解Ⅱ:からだの動かし方(関節可動域) | 18 | |
| 4 | 運動技術の理解Ⅲ:運動の伝導と正確性 | 19 | |
| 5 | 運動技術の学習Ⅰ:走る・跳ぶ動作 | 20 | |
| 6 | 運動技術の学習Ⅱ:投げる・捕る・打つ動作 | 21 | |
| 7 | 運動技術の学習Ⅲ:マット運動 | 22 | |
| 8 | 運動技術の学習Ⅳ:とび箱を使った運動 | 23 | |
| 9 | 運動技術の学習Ⅴ:鉄棒を使った運動 | 24 | |
| 10 | 運動技術の学習Ⅵ:なわを使った運動 | 25 | |
| 11 | 子どもの運動能力測定:体力測定の内容と評価 | 26 | |
| 12 | 運動と学習Ⅰ:サッカーのルールと個人・集団技術 | 27 | |
| 13 | 運動と学習Ⅱ:バレーボールのルールと個人・集団技術 | 28 | |
| 14 | 運動と学習Ⅲ:バスケットボールのルールと個人・集団技術 | 29 | |
| 15 | 測定・評価に基づいた運動遊びの計画 | 30 | |

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、講義内課題(50%)、レポート(30%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|----------------------------------|-----------------------------|
| 「スポーツができる子になる方法」 深代千之 著 ASCII | 「教師のための運動学」 吉田茂、三木四郎編 大修館書店 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 幼児体育 | 保育士資格 |

臨床心理学

《2単位(演習)／幼児保育学科2年通年／ピアヘルパー必修》

担当者

森上真由美

授業の概要

カウンセリングをはじめとした、さまざまな臨床心理学的な理論を紹介し、またワークを通して、知識や技術を習得していく。自己理解のためのワークとして、心理テストをすることもある。なお、この授業はピアヘルパー資格試験を受験するための必須科目である。

到達目標

- ・心の問題を理解するために必要な知識、技術、心構えを学ぶ。
- ・カウンセリングに代表される臨床心理学的理論や技術の理解を深める。

事前事後学習

事前に授業に関連する資料を配布するので、授業前に読んでおく。授業後には授業にて配布したプリントを整理しまとめておく。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|------------------|----|----------------|
| 1 | オリエンテーション | 16 | 臨床心理アセスメント |
| 2 | 臨床心理学とは | 17 | 心理テストの種類・分類 |
| 3 | 心理学の歴史 | 18 | 心理テストの体験:質問紙法① |
| 4 | 心理学の分類 | 19 | 心理テストの体験:質問紙法② |
| 5 | フロイトの精神分析 | 20 | 心理テストの体験:作業検査法 |
| 6 | ユングの分析心理学 | 21 | 心理テストの体験:投影法① |
| 7 | エリクソンの発達課題 | 22 | 心理テストの体験:投影法② |
| 8 | ピアジェの発達段階説 | 23 | 心理テストの分類:投影法③ |
| 9 | ボウルビイの愛着理論 | 24 | リラクゼーション |
| 10 | ロジャースのクライエント中心療法 | 25 | 精神医学① |
| 11 | 行動療法 | 26 | 精神医学② |
| 12 | 認知療法 | 27 | ピアヘルパー対策① |
| 13 | グループワーク① | 28 | ピアヘルパー対策② |
| 14 | グループワーク② | 29 | ピアヘルパー対策③ |
| 15 | 前期まとめ | 30 | 後期まとめ |

成績評価基準及び方法

提出物・学習態度(30%)、定期試験(70%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|----------------------------------|------------|
| 「ピアヘルパーハンドブック」日本教育カウンセラー協会編 図書文化 | 随時紹介する。 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 保育の心理学Ⅱ, 保育臨床相談 | ピアヘルパー認定試験 |

こどもの発達障がい

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／こども心理コース選択》

担当者

山口昌澄

授業の概要

現在の保育・教育現場において、非常に関心が高まっている、特別な配慮を要する子どもたちについて詳しく取り上げる。彼らとより良い関係を築くうえでのポイントなどを紹介し、子どもの育ちの支援において、実践的かつ有益な知見を得る機会も提供したい。

到達目標

- ・子どもの障がい(発達・精神)障害について、心理学や療育現場における知見を学ぶ。
- ・障がい児への具体的支援について理解を深める。

事前事後学習

授業配布資料、下記参考図書等を精読し、学習理解を深めること。
教材制作等に必要な情報収集・検討を、授業の前後においてもおこなうこと。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|------------------------------|----|----|
| 1 | オリエンテーション(授業のねらい等説明) | 1 | |
| 2 | 「発達」理解について | 2 | |
| 3 | 自閉症スペクトラム障がい① | 3 | |
| 4 | 自閉症スペクトラム障がい② | 4 | |
| 5 | 自閉症スペクトラム障がい③ | 5 | |
| 6 | AD/HD(注意欠陥・多動性障がい)とLD(学習障がい) | 6 | |
| 7 | 知的障がい | 7 | |
| 8 | ダウン症 | 8 | |
| 9 | 障がいを持った子どもの保護者に対する支援 | 9 | |
| 10 | 障がい児への具体的支援①(構造化等) | 10 | |
| 11 | 障がい児への具体的支援②(コミュニケーションツール) | 11 | |
| 12 | 「支援グッズ」企画・作成① | 12 | |
| 13 | 「支援グッズ」企画・作成② | 13 | |
| 14 | 「支援グッズ」プレゼンテーション | 14 | |
| 15 | 学習のまとめ | 15 | |

成績評価基準及び方法

| | |
|-------------------------|--|
| 学習態度(50%)、授業課題提出物(50%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 特になし。毎回資料を配布。 | 「こんなとき、どうする?発達障害のある子への支援 幼稚園・保育園」内山登紀夫監修 ミネルヴァ書房 「こころの本質とは何かー統合失調症・自閉症・不登校のふしぎー」滝川一廣著 ちくま新書 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 障がい児保育、保育の心理学Ⅰ・保育の心理学Ⅱ等 | 保育士資格 |

保育現場の人間関係

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／こども心理コース選択》

担当者

山口昌澄

授業の概要

保育現場は、まさに人と人が出会い、かかわる場である。本演習では保育・教育現場で生じる対人関係上の様々な問題について、発達・社会・臨床心理学的側面より解説していく。また、グループワークやロールプレイング等も積極的に取り入れ、受講者自身のコミュニケーション・スキルの向上もはかりたい。

到達目標

- ・保育現場におけるコミュニケーションについて理解を深める。
- ・保育者に必須である、対人関係における観点を広げる。
- ・保育現場で有効なソーシャル・スキルの向上をはかる。

事前事後学習

授業配布資料、下記参考図書等を精読し、学習理解を深めること。
個人およびグループにて、課題等に必要な情報収集・検討を授業の前後においてもおこなうこと。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|----------------------|----|----|
| 1 | オリエンテーション | 1 | |
| 2 | 集団合意(コンセンサス) | 2 | |
| 3 | 愛着関係再び考える | 3 | |
| 4 | 遊戯とコミュニケーション | 4 | |
| 5 | 子どもの仲間関係の発達 | 5 | |
| 6 | 情報伝達(はなす・きく・みる)① | 6 | |
| 7 | クリティカルシンキング | 7 | |
| 8 | カウンセリングマインドと他者理解 | 8 | |
| 9 | 非言語的コミュニケーション | 9 | |
| 10 | 情報伝達(はなす・きく・みる)② | 10 | |
| 11 | リーダーシップを発揮する方法 | 11 | |
| 12 | ロールプレイング①(実演とグループ討議) | 12 | |
| 13 | ロールプレイング②(実演とグループ討議) | 13 | |
| 14 | ロールプレイング③(実演とグループ討議) | 14 | |
| 15 | 学習ふりかえり・まとめ | 15 | |

成績評価基準及び方法

| | |
|--------------------------------|---|
| 演習参加における学習態度(60%)、レポート課題等(40%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 特になし。適宜レジュメ等配布する。 | 「人間関係・コミュニケーション」窪野欣生著 金子書房 「こころをひらく対話術ー精神療法のプロが明かした気持ちを通わせる30の秘訣」泉谷閑示著 SBクリエイティブ |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 保育内容(生活と人間関係)、保育の心理学Ⅰ、保育の心理学Ⅱ他 | 保育士資格 |

卒業研究(幼保)

《2単位(演習)／幼児保育学科2年通年／卒業必修》

担当者

幼児保育学科教員

授業の概要

保育や子育てをめぐる様々な問題に関心に向け、客観的資料の収集・解読によって問題の核心に迫るための研究能力の基礎を培います。身に着けた能力を2年次からの卒業研究でさらに磨いていくための真摯な取り組みがみなさんに求められます。本演習は保育士、幼稚園教諭、福祉施設職員としての資質や能力及び倫理観を育成し、保育等の現場で力を発揮できる人材を育成することを第一の目的である。その目的達成のため、これまでの学習の省察、マナー・生活態度など社会人としての基本的姿勢の形成、各ゼミ担当教員の専門性を生かしたゼミ活動を展開し、その学習成果として卒業研究発表を実施する。

到達目標

- ・現場で活躍できる保育士・教諭等としての資質・能力・倫理観等の獲得。
- ・保育技術など保育実践で活用できる専門的な知識・技術の向上。
- ・就職活動経験を通しての、社会人としてのマナーや成果態度の習得。
- ・キャリア意識の形成など、幅広い視野、将来展望の涵養。

事前事後学習

授業教科書、資料などを授業前後にしっかり読み、学習に臨むこと。また卒業研究発表に向け、関連資料の収集や整理、調査、論文添削などの作業についても個別的に取り組むこと。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|------------------------------|----|---------------------|
| 1 | オリエンテーション(ゼミ選択希望調査等) | 16 | ゼミ別研究 |
| 2 | これまでの学習の省察 | 17 | 専門職ガイダンス(OB講話) |
| 3 | 保育専門用語Ⅰ | 18 | 就職ガイダンス⑥(就職試験対策前編) |
| 4 | 就職につながる大学での学び(学習・生活面等) | 19 | 就職ガイダンス⑦(就職試験対策後編) |
| 5 | ゼミ別研究 | 20 | ゼミ別研究 |
| 6 | 専門職ガイダンス(福祉・教育現場Ⅰ) | 21 | 専門職ガイダンス⑧(福祉・教育現場Ⅱ) |
| 7 | 保育専門用語Ⅱ | 22 | 保育専門用語Ⅴ |
| 8 | ゼミ別研究 | 23 | ゼミ別研究 |
| 9 | ゼミ別研究 | 24 | 専門職ガイダンス④(福祉・教育現場Ⅲ) |
| 10 | 就職ガイダンス①(社会人としての心構え等)6/1 | 25 | ゼミ別研究 |
| 11 | 保育専門用語Ⅲ | 26 | ゼミ別研究 |
| 12 | 就職ガイダンス②(就職活動の流れ、求人票の見方等)7/6 | 27 | ゼミ別研究 |
| 13 | 就職ガイダンス③(履歴書作成に向けた自己分析)7/13 | 28 | ゼミ別研究 |
| 14 | 就職ガイダンス④(応募方法・自主実習等)7/27 | 29 | ゼミ別研究 |
| 15 | 保育専門用語Ⅳ・学習のまとめ | 30 | 学習のまとめ |

成績評価基準及び方法

卒業研究発表(50%)、保育用語テスト(10%)、ガイダンスレポート(20%)、参加態度(20%)

| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
|---|-----------|
| 「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本的用語」長島和代編 わかば社 その他、適宜資料を配布する。 | 適宜指示する。 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| 基礎ゼミ、保育実習指導(Ⅰ～Ⅲ)、教職(幼稚園)・保育)実践演習他 | なし |

キャリアスタディ

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／卒業必修》

担当者

幼児保育学科教員

授業の概要

本演習は保育士、幼稚園教諭、福祉施設職員としての資質や能力及び倫理観を育成し、保育等の現場で力を発揮できる人材を育成することを第一の目的である。その目的達成のため、これまでの学習の省察、マナー・生活態度など社会人としての基本的姿勢の形成、漢字テストや文章作成技術等基礎学力の強化などを図る。また各種ガイダンスにおいては、保育・教育等の就業意識を深め、実践的な就職スキル向上を目指す。

到達目標

- ・現場で活躍できる保育士・教諭等としての資質・能力・倫理観等の獲得。
- ・保育技術など保育実践で活用できる専門的な知識・技術の向上。
- ・就職活動経験を通しての、社会人としてのマナーや成果態度の習得。
- ・キャリア意識の形成など、幅広い視野、将来展望の涵養。

事前事後学習

提示する資料などを授業前後にしっかり読み、学習に臨むこと。講義を通じて、社会の動向を察知し、社会人に求められる職業倫理への意識を高めてほしい。

授業計画(項目・内容)

| 回 | 前期 | 回 | 後期 |
|----|---------------------------|---|----|
| 1 | オリエンテーション | | |
| 2 | 就職につながる大学での学び(学習・生活面等) | | |
| 3 | キャリアデザインを描く | | |
| 4 | 保育専門用語① | | |
| 5 | 保育専門用語② | | |
| 6 | 就職ガイダンス①(就職試験対策前編) | | |
| 7 | 就職ガイダンス②(就職試験対策後編) | | |
| 8 | 専門職ガイダンス①(OB講話) | | |
| 9 | 専門職ガイダンス②(福祉・教育現場Ⅱ) | | |
| 10 | 専門職ガイダンス③(福祉・教育現場Ⅲ) | | |
| 11 | 就職ガイダンス③(社会人としての心構え等) | | |
| 12 | 就職ガイダンス④(就職活動の流れ、求人票の見方等) | | |
| 13 | 就職ガイダンス⑤(履歴書作成に向けた自己分析) | | |
| 14 | 就職ガイダンス⑥(応募方法・自主実習等) | | |
| 15 | 学習のまとめ | | |

成績評価基準及び方法

| | |
|---------------------------------------|------------------|
| ガイダンスレポート(40%)、保育用語テスト(30%)、参加態度(30%) | |
| テキスト | 参考文献・推薦図書 |
| 適宜資料を配布する。 | 適宜指示する。 |
| 関連のある授業科目 | 資格等 |
| | なし |